

令和4年度 山口県立大学 感染管理認定教育課程

入学試験

筆記試験 専門科目

(問題用紙)

令和4年2月19日(土)

9:00~10:30

受験番号	
------	--

注意事項

- 1 問題用紙、解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入してください。
- 2 問題用紙は表紙を含めて17枚です。解答用紙は2枚です。
- 3 問題用紙の余白は、自由にお使いください。
- 4 解答はすべて解答用紙の該当箇所に記入してください。該当箇所以外に書かれたものは、採点の対象になりません。
- 5 問題用紙は、解答用紙と共に試験終了後回収します。問題用紙を破いたり、取り除いたりしないでください。

【問題1】 感染防止対策加算に関する記述で正しいものはどれか。

- a. 感染防止対策加算1を算定する医療機関の施設基準として、地域や全国のサーベイランスに参加していることが望ましいとされている。
- b. 感染防止対策地域連携加算は、感染防止対策加算1を算定する医療機関と加算2を算定する医療機関が連携して相互に感染防止に関する評価を行った場合に加算される。
- c. 感染防止対策加算1および2の算定要件として、感染防止に係る部門の設置が求められている。
- d. 感染防止対策加算1の算定要件として、感染症対策に3年以上の経験を有する常勤医師及び5年以上感染管理に従事し感染管理に係る適切な研修を修了した看護師のいずれかが専従であることが求められている。
- e. 感染防止対策地域連携加算を算定している保健医療機関が、抗菌薬適正使用支援チームを設置し、抗菌薬の適正な使用の推進を行っている場合に、抗菌薬適正使用支援加算100点が算定される。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題2】 感染症法について誤っているものはどれか。

- a. 新型コロナウイルス感染症は、新型インフルエンザ等感染症に分類され、すみやかな届け出が義務付けられている。
- b. 5類感染症の定点把握は、発生動向の把握が必要なもののうち、患者数が多数で全数を把握する必要がないもので、指定医療機関（定点医療機関）の管理者が届出を行う疾患をいう。
- c. 薬剤耐性緑膿菌感染症は5類感染症（全数把握）に分類され、7日以内の届け出が義務付けられている。
- d. 鳥インフルエンザ（H5N1）は指定感染症である。
- e. 指定感染症は1類から3類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されないが、同等の措置が必要となった未知の感染症で、延長措置を含め2年限定である。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題3】 生体の免疫機構について正しいものはどれか。

- a. 物理的バリアとは、皮膚や粘膜からの微生物の侵入を防ぐ働きをいう。
- b. 自然免疫には、好中球やマクロファージなどによる食作用がある。
- c. 獲得免疫はB細胞が働く細胞性免疫とキラーT細胞が働く体液性免疫に分けられる。
- d. HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染すると自然免疫が働かなくなるため、日和見感染を起こす。
- e. 自然免疫は体液性免疫に比べ、免疫応答が遅い。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

【問題4】データの中心的傾向を示す言葉で正しいものはどれか。

- a. 平均値
- b. 標準偏差
- c. 平均偏差
- d. 中央値
- e. 最頻値

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題5】用語とその説明について正しいものはどれか。

- a. 基本再生産数 - 感染力のある一人の感染者が、免疫の獲得もしくは死亡によりその感染力を失うまでに何人の未感染者に感染させたかの人数のことである。
- b. 陽性的中率 - 検査結果が陽性と出た人のうち真に疾患を有している人の割合である。
- c. 有病率 - ある集団において一定期間における疾病の発生頻度のことである。
- d. 中央値 - データの平均の値のことである。
- e. 偽陽性率 - 実際には疾患を有していないが、検査で陽性と出た人の割合である。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題6】変数についての記述で誤っているものはどれか。

- a. 身長・体重は比例尺度である。
- b. 満足度は順序尺度である。
- c. がんのステージ分類は間隔尺度である。
- d. 年齢は順序尺度である。
- e. 血液型は名義尺度である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

【問題7】A病院における2月の入院患者数300名、延べ入院患者日数は4800日であった。2月に新規にMRSA陽性と報告された患者は6人、すでにMRSA陽性となっている患者が他に9人入院している。次の説明で正しいものはどれか。

- a. MRSA陽性率は5%である。
- b. MRSA新規陽性率は2%である。
- c. MRSA新規陽性率は3%である。
- d. MRSA陽性密度率は3.125対1000患者日である。
- e. MRSA陽性密度率は1.25対1000患者日である。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題8】届け出が必要な感染症とその対応について正しいものはどれか。

- a. 1類感染症-----エボラ出血熱-----直ちに届け出
- b. 2類感染症-----結核-----直ちに届け出
- c. 3類感染症-----腸管出血性大腸菌感染症-----直ちに届け出
- d. 4類感染症-----エキノкокクス症-----7日以内に届け出
- e. 5類感染症-----麻しん-----7日以内に届け出

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題9】予防接種法に関する記述について正しいものはどれか。

- a. 肺炎球菌ワクチンは予防接種法においてB類疾病の定期接種である。
- b. B型肝炎ワクチンは4週間の間隔をあけて、3回接種する。
- c. インフルエンザワクチンを接種した後、水痘ワクチンを接種する場合には7日以上間隔をあける必要がある。
- d. ポリオワクチンは2012年以降、不活化ワクチンに移行した。
- e. MR（麻しん、風しん混合）ワクチンを接種した後、水痘ワクチンを接種する場合は27日以上間隔をあける必要がある。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 10】 下の表は集中治療室の患者 10 名の在室日数を表したものである。
このデータに関する文章のうち誤っているものはどれか。

患者	性別	在院日数 (日)
A	男	13
B	女	6
C	男	8
D	男	10
E	女	5
F	男	7
G	男	14
H	女	21
I	女	30
J	男	6
合 計		120

- a. 延べ入院患者数は 120 である。
- b. 性別は名義尺度である。
- c. 在院日数の最頻値は 30 である。
- d. 在院日数は順序尺度である。
- e. 平均在院日数は 12 日である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

【問題 11】 問題 10 のデータにおいて、在院日数の中央値は以下のどれか。

- 1. 6
- 2. 7
- 3. 8
- 4. 9
- 5. 10

【問題 12】「医療現場における隔離予防策のための CDC ガイドライン 2007」の標準予防策における個人防護具の使用について、誤っているものはどれか。

- a. 2人以上の患者のケアに同じ手袋を装着してはならない。
- b. 複数の個人防護具を使用する場合、手袋は最後に着け、最初に外す。
- c. 眼鏡を装着している人は、ゴーグルを装着する必要はない。
- d. 高リスク患者のユニット（ICU, NICU, 造血幹細胞移植ユニットなど）に入室する際は、ルーチンにガウンを装着する。
- e. 手袋を外した後の手指衛生は必要ない。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 13】感染症と経路別予防策と原因微生物の組み合わせで正しいものはどれか。

- a. レジオネラ症-----接触予防策-----*Legionella pneumophila*
- b. 結核-----飛沫予防策-----結核菌
- c. 伝染性単核球症-----標準予防策-----EBウイルス
- d. 麻しん-----空気予防策-----麻しんウイルス
- e. デング熱-----標準予防策-----デングウイルス

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 14】感染経路別予防策として正しいものはどれか。

- 1. ウイルス感染のある免疫不全患者については、他者に伝播する可能性のあるウイルス性病原体の排出が長引くため、感染経路別予防策の期間を延長する。
- 2. 百日咳の患者を収容している病室空調は陰圧管理が必要である。
- 3. 空気予防策では、感染患者とその家族及び医療行為を行うスタッフ全員がN95マスクを着用しなければならない。
- 4. 感染経路別予防策とは感染症の診断がついた時点で、標準予防策にかえて実施する対策である。
- 5. 環境の汚染を介して伝播する病原体を封じ込めるためには、入室の際に個人防護具を装着し、病室を出た後に廃棄する。

【問題 15】「血管内留置カテーテル関連感染予防のための CDC ガイドライン 2011」の記述で正しいものはどれか。

1. カテーテル挿入部の被覆では、滅菌ガーゼより滅菌フィルムドレッシングのほうが血流感染を防げる。
2. 成人患者では、中心静脈カテーテルのアクセス部位として大腿静脈は避ける。
3. カテーテル関連血流感染防止のために、中心静脈カテーテルを留置後は予防的な抗菌薬投与を行う方が良い。
4. 中心静脈カテーテルおよび末梢動脈カテーテル挿入時やドレッシング交換時には 0.1%クロルヘキシジングルコンサン塩を含有したアルコール製剤を用いて皮膚の消毒をする。
5. 末梢カテーテルは 72 時間以内毎に交換しなければならない。

【問題 16】「カテーテル関連尿路感染の予防のための CDC ガイドライン 2009」の推奨事項に関する説明で誤っているものはどれか。

1. 患者ごとに別々の清潔な採尿容器を用いて、定期的に採尿バッグを空にする。
2. 尿路カテーテルの無菌的挿入後は、その閉鎖式排尿システムを維持する。
3. カテーテル留置中は、CAUTI 防止のために尿道口周囲を定期的に消毒する。
4. 尿道カテーテルを定期的に交換する必要はない。
5. 患者に対して尿路カテーテルを失禁管理のために使用しない。

【問題 17】「医療現場における感染性病原体の伝播予防 CDC ガイドライン 2007」に記載されている防護環境についての内容で正しいものはどれか。

- a. 1時間につき12回以上換気を実施する。
- b. 防護環境を必要とする患者が、診断のための処置またはその他の活動のために室外にいる時間を最小限にする。
- c. 病室内空気圧を廊下に対して陰圧にする。
- d. 防護環境区域の廊下や病室にはカーペットを敷く。
- e. 防護環境区域には、ドライフラワーや生花を禁止する。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 18】 検体採取方法や保存方法について正しいものはどれか。

- a. 髄液検体を採取後直ちに提出できない場合は、冷蔵保存しておく。
- b. 細菌培養検査のために喀痰を採取する場合は、口腔内の常在菌による汚染を避けるために、含嗽剤でうがいを十分行ってから排痰させる。
- c. 痰培養検体を採取後直ちに提出できない場合は、冷蔵保存しておく。
- d. 血液培養検査を行う場合、2セット以上採取することが望ましい。
- e. 便培養検体を採取後直ちに提出できない場合は、冷蔵保存しておく。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 19】 グラム染色について誤っているものはどれか。

- a. グラム陽性菌は細胞壁が薄く脱色され、赤く染色される。
- b. 大腸菌はグラム陽性菌である。
- c. MRSA はグラム陽性菌である。
- d. 肺炎球菌は赤く染色される。
- e. グラム陰性菌は細胞壁が厚く外膜を持つため脱色されず、青（紫）に染色される。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 20】 「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル H30 年 3 月」に記載されている内容について、正しいものはどれか。

- a. 液状・泥状の感染性廃棄物容器には橙色のバイオハザードマークを表示する。
- b. 使用済み紙オムツはすべて感染性廃棄物として廃棄する必要がある。
- c. 感染性廃棄物の判断は、形状、排出場所、感染症の種類の 3 つの観点をもって判断する。
- d. 血液等が付着していない鋭利物は、感染性廃棄物として耐貫通性の容器に廃棄する。
- e. 感染性廃棄物の保管場所は、感染性廃棄物の所在を表示し、他の廃棄物と区別して保管しなければならない。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 21】 洗浄・消毒・滅菌について正しいものはどれか。

1. HBV 抗原陽性の患者の創処置に使用したセッションは、洗浄後次亜塩素酸ナトリウムによる消毒をしたのちに滅菌処理しなければならない。
2. 患者に使用したリユース器材は感染伝播防止のため、すべて滅菌しなければならない。
3. 消毒とは細菌芽胞を除くすべての、または多くの病原体を殺滅することであり、できるだけ消毒薬の濃度を濃くした方がよい。
4. インプラント（生体植え込み器具）を滅菌する場合、生物学的インジケータ（BI）を毎回使用し、陰性結果を確認後に払い出す。
5. 一般的にエンベロープを持つウイルスは消毒薬抵抗性が高い。

【問題 22】 原因微生物がウイルスである感染症はどれか。

- a. 咽頭結膜熱
- b. 重症熱性血小板減少症候群
- c. 後天性免疫不全症候群
- d. アスペルギルス症
- e. 破傷風

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 23】 カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）に関する記述で正しいものはどれか。

- a. CREはグラム陽性球菌で、湿潤な環境が主な生息場所である。
- b. CREは広域抗菌薬を長期にわたって使用しているICU患者や術後患者において、感染症の原因菌となりやすい。
- c. メロペネムなどのカルバペネム系薬剤及び広域β-ラクタム剤に対して耐性を示す腸内細菌科細菌による感染症である。
- d. カルバペネム耐性遺伝子がプラスミドの伝達により、複数の菌種に拡散していく特徴を持つ。
- e. 5類感染症定点報告の感染症であり、7日以内の届け出をしなければならない。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 24】梅毒について誤っているものはどれか。

- a. 梅毒は梅毒トレポネーマというウイルスによる性感染症である。
- b. 梅毒は、日本では 2013 年から増加傾向にあり、最近では若い女性の感染者が急増している。
- c. 梅毒の経過は、1 期から 4 期に分けられる。
- d. 妊婦が感染している場合は、生まれてくる児にも障害が出ることもあり、先天梅毒と言われる。
- e. 感染後、3～6 か月の潜伏期間を経て発症する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

【問題 25】医療関連感染サーベイランスに関する記述で誤っているものはどれか。

- 1. サーベイランスを効果的に行うために、データ収集および判定は適切な教育を受けた専門家が主体として行うほうがよい。
- 2. サーベイランスデータを他の施設とベンチマークする場合には、同じ疾患定義を用いていることが条件である。
- 3. サーベイランス対象部署に効果的に介入するためには能動的サーベイランスより受動的サーベイランスを行うことが推奨される。
- 4. アウトカム評価では、施設や部署ごとの感染のリスク調整をして比較する。
- 5. 包括的サーベイランスは、施設で発生するあらゆる医療関連感染を対象とする。

【問題 26】以下の文章を読み、設問に答えなさい。

あなたは、500床の総合病院の感染管理担当看護師である。救急外来より、血液曝露の報告を受けた。吐血で救急搬送された肝硬変の患者の対応をしていたところ、血液の混入した吐物がX看護師の目に入ってしまった。患者はHBs抗原陽性、HCV抗体陰性、HIV抗体陰性であった。あなたは直ちに救急外来に出向き、X看護師にインタビューし、以下を確認した。

- ・ X看護師は、HBs抗体不明、HCV抗体陰性である。
- ・ X看護師は過去にB型肝炎ワクチンを接種したことはあるが、詳細はわからない。
- ・ X看護師は血液曝露時、手袋、エプロンは装着していたが、ゴーグルは装着していなかった。

【設問 1】 X看護師に対する曝露後の対応として、正しいものはどれか。

- a. X看護師を業務から離脱させ、流水による目の洗浄を行う。
- b. X看護師への感染のリスクを知るために、患者のHBe抗原検査を実施する。
- c. X看護師のHBs抗体値が不明であるため、直ちにHBs抗原抗体検査を行なう。
- d. X看護師はワクチン接種歴があるため、追加のワクチン接種は不要である。
- e. 患者はHBs抗原陽性であるため、X看護師に48時間以内にインターフェロンを投与する。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【設問 2】 針刺し・血液曝露時の感染リスクについて誤っているものはどれか。

- a. 感染症別の感染リスクは、HCV>HBV>HIVの順に高くなる。
- b. 針刺しをした際の器材別の感染リスクは、縫合針より中空針の方が高い。
- c. 血液・体液を廃液する時には、標準予防策として手袋・エプロンに加えゴーグルも装着する。
- d. 血液曝露者のHBs抗体価が基準値を満たしていれば、HBs抗原陽性の血液に曝露しても特別な処置は必要ない。
- e. 粘膜への曝露の場合、感染リスクは低いため、針刺し・血液曝露の報告対象とはならない。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

【設問3】今後、救急外来における職業感染防止対策として誤っているものはどれか。

- a. 感染症のある患者の観血的な処置時および処置後の片付けの際には、ゴーグルも必ず装着するように手順に加える。
- b. HBs抗体を獲得していないスタッフには、早急にB型肝炎ワクチンプログラムを開始する。
- c. 職業感染対策について勉強会を開催するとともに、個人防護具の装着状況について調査・検討する。
- d. 救急外来における粘膜曝露予防のために、眼鏡をかけているスタッフ以外は、ゴーグルの装着を徹底する。
- e. スタッフ全員にHCV抗体とHIV抗体検査を実施する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

【設問4】B型肝炎ワクチン接種について、正しいものはどれか。

- a. B型肝炎ワクチンの定期接種は、1歳未満に3回接種する必要がある。
- b. ワクチン未接種で、HBs抗原(-)かつHBs抗体価が10mIU/ml未満の場合はワクチンプログラムを開始する。
- c. B型肝炎ワクチンは生ワクチンである。
- d. B型肝炎ワクチンを1回接種し抗体価を調べたところ、HBs抗体価が100mIU/mlであったため2回目以降は接種しなかった。
- e. HBs抗体価が基準値を満たしていたが、基準値未満となった職員は追加のワクチン接種は不要である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

【問題 27】以下の文章を読み、設問に答えなさい。

あなたは、Y 病院の感染管理担当看護師である。2015 年 4 月から ICU で中心ライン関連血流感染（CLABSI）サーベイランスを行なっているが、2019 年 4 月から 2020 年 3 月の CLABSI 発生率は、適切な皮膚消毒やマキシマルバリアプリコーションなどを包括的に実施しているにも関わらず減少しなかったため、2020 年 4 月にクロルヘキシジン含有スポンジドレッシングを導入し、2021 年 3 月までのサーベイランス結果を分析し、評価することにした。
2019 年度と 2020 年度の CLABSI サーベイランス結果は下表のとおりである。

	2019年度	2020年度
中心ライン関連血流感染症例数	9件	4件
入院患者数	350人	400人
延べ中心ライン使用日数	1500日	1600日
延べ入院患者日数	1800日	2000日

【設問 1】Y病院ICUの2019年度の中心ライン関連血流感染率で正しいものはどれか。

1. 0.2 （対1000中心ライン使用日数）
2. 2.5 （対1000中心ライン使用日数）
3. 5.0 （対1000中心ライン使用日数）
4. 6.0 （対1000中心ライン使用日数）
5. 9.0 （対1000中心ライン使用日数）

【設問 2】Y病院ICUの2020年度の中心ライン使用比で正しいものはどれか。

1. 0.2
2. 0.25
3. 0.50
4. 0.80
5. 1.00

【設問3】2019年度と2020年度の感染率の比較を行なう上で、適切な検定法はどれか。

1. 独立したサンプルのt検定
2. 対応のあるサンプルのt検定
3. カイ二乗検定
4. マンホイットニーU検定
5. F検定

【設問4】2020年度の感染率は2019年度と比較して約60%の減少率を認め、検定を行なった結果は、 $p=0.13$ でした。有意水準を0.05としたときの結果の解釈として正しいものはどれか。

1. 感染率の差が0.13であり、クロルヘキシジン含有スポンジドレッシングを使用することによって感染率が低減できることが証明された。
2. 統計学的な有意差は認められなかったが、感染率の減少率が高かったことからクロルヘキシジン含有スポンジドレッシングの使用は臨床的に効果があった。
3. 統計学的な有意差は認められなかったため、クロルヘキシジン含有スポンジドレッシングは使用すべきではないことが証明された。
4. 統計学的に有意差を認めたため、クロルヘキシジン含有スポンジドレッシングの使用は効果があることが証明された。
5. 減少率が低かったため、クロルヘキシジン含有スポンジドレッシングの有効性はわからなかった。

【問題 28】以下の文章を読み、設問に答えなさい。

あなたはZ市立病院（700床）の感染管理担当看護師である。2021年5月に消化器外科病棟リンクナースから「術後創感染について、基本的な知識を身につけ、現場のケアに活かしたい」と相談があった。そこで手術部位感染（Surgical Site Infection：SSI）予防策に関する症例検討を行った。

【SSI患者の経過】

定期健診で直腸癌が判明したO氏である。入院1週間前に看護師から禁煙を指導され、手術前日に入院した。入院当日に看護師がクリッパーによる除毛と腸管前処置を実施した。腹腔鏡下大腸切除術の術後5日目に本人から創痛の訴えがあり担当医が創部の観察をすると、正中創に発赤と腫脹を認めた。創の一部が離開し、排膿があったため培養を提出した。担当医は、SSIと判断し創洗浄およびガーゼ交換を実施した。

【術後の創処置方法】

手袋を着用せず汚染したドレッシング材を除去し、その後手指消毒をせずに新しいドレッシング材を貼付する場面が複数回観察されていた。

【患者（O氏）情報】

75歳男性

身長 163cm 体重84kg（入院時測定） Body Mass Index（BMI）31.6

既往歴 糖尿病 高血圧

【設問 1】厚生労働省院内感染サーベイランス事業（JANIS）のSSI部門の公開情報2020年年報において下部消化管手術のSSIの原因菌で多くを占めるものはどれか。

- a. 腸球菌
- b. バクテロイデイス フラジリス
- c. 緑膿菌
- d. 真菌
- e. セラチア

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【設問2】0氏のSSIのリスク因子として考えられるものはどれか。

- a. 糖尿病
- b. 喫煙
- c. 肥満
- d. 術前の入院期間
- e. クリッパーによる除毛

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【設問3】術前後抗菌薬予防投与について正しいものはどれか。

- 1. 術中・術後を想定した広域スペクトラムの抗菌薬を選択する。
- 2. 抗菌薬の開始時間は、患者の手術室入室時にその薬剤の殺菌的濃度が血清および組織に得られる時期を選ぶ。
- 3. 閉創後2～3時間まで血清および組織の薬剤の治療濃度が維持できるように追加投与を行う。
- 4. 少なくとも術後3日間は抗菌薬の投与を継続する。
- 5. 術後の抗菌薬予防投与は長ければ長いほど良い。

【設問4】SSI予防策として推奨される事項として、誤っているものはどれか。

- a. ドレッシング材や手術部位に接触する前後は手指衛生を実施し、無菌操作によるドレッシング交換に努める。
- b. 手術中は創部への酸素供給を低下させないために術中の保温を行う。
- c. 待機手術の場合、禁煙指導などの術前管理のために、入院は手術より1週間前とする。
- d. 手術室内の環境をモニタリングするために定期的な微生物サンプリングを行う。
- e. 手術室への入室時に靴カバーを着用する。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

【問題 29】以下の文章を読み、設問に答えなさい。

あなたは、300床の急性期病院の内科病棟の看護師でICTのメンバーである。
病棟のスタッフから、「1週間前から多床室に入院しているP氏の喀痰抗酸菌塗抹検査の結果が陽性であったが、何か対応したほうがいいか？」と相談があった。P氏は、入院時から咳をしていた。

【設問 1】この時点で、あなたがまず行う対応として正しいものはどれか。

1. 非結核性抗酸菌症も考えられるので、PCR 検査の結果が出るまで特別な対応はしないでよい。
2. 肺結核であるため直ちに保健所に届け出、P 氏を結核入院施設へ転院させる。
3. 肺結核も疑われるのでP 氏に説明し、個室隔離のうえ空気感染予防策を適応する。
4. PCR検査の結果が出るまでP氏にはサージカルマスクを装着してもらい、多床室で経過観察をする。
5. スタッフの接触者のリストアップを行う。

【設問 2】その日の午後、PCR検査で結核菌であることが判明した。同室者に対する対応で正しいものはどれか。

- a. P氏と同室であった患者は濃厚接触者であり、感染の可能性があるため、コホート隔離の上、空気感染予防策を適応する。
- b. 同室患者は濃厚接触者として、8～10週間後にインターフェロン γ 遊離試験（IGRA）を行う。
- c. 同室患者は濃厚接触者であるが、発病しないかぎり隔離などの特別な対応は必要ない。
- d. 同室患者にはサージカルマスクを着用してもらい、個室管理とする。
- e. 同室患者に対しては、感染予防のため、直ちに抗結核薬を投与する。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

【設問 3】結核の活動性の有無を診断するための検査法で正しいものはどれか。

1. インターフェロン γ 遊離試験（IGRA）
2. 抗酸菌塗抹検査
3. グラム染色
4. ツベルクリン反応検査
5. 抗酸菌培養検査